



盛岡市プレスリリース

～輝きが増し 活力に満ち 夢をかなえるまち盛岡～

令和7年9月26日

商工労働部

ものづくり推進課

工業振興係

市政記者クラブ加盟社 各位

地域のDX化へ一歩 企業と専門学校生の共育プロジェクト始動！

市では、東北経済産業局とともに、地域課題などを基に新たな価値を生み出す企画を立案し、デジタルトランスフォーメーション（以下「DX」という）を誘引する取組を次々と創出するために、地域企業が地域のIT・情報系専門学校との連携によりバックキャスト型のDXを実現するプロジェクトを始動します（以下「地域DX共育※プロジェクト」という）。

プロジェクトの内容については、現在検討を重ねており、地元密着型の企業と将来有望な若手デジタル人材である専門学校生が関わる取り組みですので、ぜひ、年間を通じて御注目いただきますようお願い申し上げます。

※「共に育つ」「共に学び合う」の意味を込めて『共育』としています。

記

1 概要

本プロジェクトは、地域企業と専門学校生が共に成長し、学び合いながらDXを実現することを目指します。

盛岡市、仙台市、秋田市の3市において、地域企業の課題や展望などを踏まえ、地域企業と東北経済産業局、自治体が連携して企画を立案し、その企画案に基づいたデジタルツールを、地元のIT・情報系専門学校生が開発します。開発されたデジタルツールは専門学校から地域企業に移譲し、社会実装へとつなげます。

2 盛岡市の取組

テーマ	書店をデジタルで守るプロジェクト「“文庫X”を生んだ本の街・盛岡市で、本好きと子どもたちをつなぐファンサイト開発（仮）」		
参画者	行政機関	地域企業	専門学校
	盛岡市商工労働部 ものづくり推進課	株式会社盛岡書房 株式会社さわや書店	学校法人龍澤学館 MCL 盛岡情報ビジネス& デザイン専門学校

※秋田市及び仙台市の取組については、別添東北経済産業局のプレスリリースをご覧ください。

3 スケジュール（予定）

- ・9月～10月頃 開発ツールの要件定義
- ・10月～12月頃 専門学校における授業開始（プロトタイプ構築）
- ・2月頃 発表会

4 お問い合わせ先

地域企業・専門学校への取材を希望する場合や御不明な点につきましては、盛岡市までお問い合わせください。

【お問合せ先】

盛岡市商工労働部 ものづくり推進課

工業振興係 高橋（たかはし）

MAIL: monozukuri@city.morioka.iwate.jp

TEL: 019-626-7538

2025 年 9 月 26 日

東北経済産業局

地域の DX 化へ一歩 企業と専門学校生の共育プロジェクト始動！

東北経済産業局（以下、当局という）及び盛岡市、秋田市は、地域課題などを基に新たな価値を生み出す企画を立案し、デジタルトランスフォーメーション（以下「DX」という）を誘引する取組を次々と創出するために、地域企業が地域のIT・情報系専門学校との連携によりバックキャスト型の DX を実現するプロジェクト（以下「地域 DX 共育※プロジェクト」という）を始動します。

※「共に育つ」「共に学び合う」の意味を込めて『共育』としています。

1. 課題と目的

地域における DX 推進に係る施策は、各行政機関において多く展開されていますが、デジタル技術が先行し、開発に膨大な時間や費用がかかるケースや、業務等のデジタル化は増進するものの、トランスフォーメーション（新しい価値や市場の創造など）に繋がらないケースなども散見されます。

これを踏まえ、当局では昨年度より、東北地域における地域課題などから新たな価値を生み出す企画（以下「X 企画」という）を先行して立案し、その価値の実現に必要な最小限のデジタル化を行うことで、早期に社会実装するバックキャスト型の DX モデルを創出する取り組みを行っています。

その一環として、「X 企画」の基となる地域企業の課題や展望を踏まえ、地元専門学校生がこれらの課題に対応したデジタルツールを開発し、地域創生に貢献する「地域 DX 共育プロジェクト」を始動します。

（参考）2024 年度実施事例：[炊き出しネットワークアプリの公開について～地域×飲食×災害でバックキャスト型の DX を創出～](#)

2. 概要

本プロジェクトでは、地域企業と専門学校生が共に成長し、学び合いながら DX を実現することを目指します。

盛岡市、仙台市、秋田市の 3 市において、地域企業の課題や展望などを踏まえ、地域企業と自治体、当局が連携して「X 企画」を立案し、その企画案に基づいたデジタルツールを、地元のIT・情報系専門学校生が開発します。開発されたデジタルツールは専門学校から地域企業に移譲し、社会実装へとつなげます。

なお、今回基礎自治体と連携し社会実装することで、当局で昨年度実施したバックキャスト型の DX 事業のノウハウを移転し、横展開を図るものです。

3. 参画者及びテーマ

行政機関	地域企業	専門学校
テーマ:書店をデジタルで守るプロジェクト「“文庫 X”を生んだ本の街・盛岡市で、本好きと子どもたちをつなぐファンサイト開発(仮)」		
盛岡市	株式会社盛岡書房 株式会社さわや書店	学校法人龍澤学館 MCL 盛岡情報 ビジネス&デザイン専門学校
テーマ:雪国農家とタイヤ屋さんをつなぐ「タイヤ交換繁忙期に助っ人募集! スポット求人アプリの開発(仮)」		
秋田市	株式会社コニシタイ ヤ	学校法人コア学園 秋田コア ビジ ネスカレッジ
テーマ:地方創生のための真のニーズを把握する「シャッターを利活用! ?なんでもアンケートアプリの開発(仮)」		
東北経済産業局	株式会社テクノ東北	学校法人滋慶学園 仙台デザイン &テクノロジー専門学校

4. スケジュール

- ・9月～10月頃 開発ツールの要件定義
- ・10月～12月頃 プロトタイプ構築
- ・2月頃 発表会

5. お問い合わせ先

ご不明点や詳細な質問がございましたら、以下の窓口までお問い合わせください。

窓口	電話	E-MAIL
盛岡市 商工労働部 ものづくり推進課	019-626-7538(直通)	monozukuri☆ city.morioka.iwate.jp
秋田市 産業振興部 企業立地雇用課	018-888-5731(直通)	ro-inbl☆city.akita.lg.jp
東北経済産業局 情報政 策・半導体戦略室	022-221-4895(直通)	bzl-thk-joho☆meti.go.jp

※【お願い】上記「☆」を「@」に変更してください。

(本発表資料のお問合せ先)

東北経済産業局地域経済部 情報政策・半導体戦略室長 井元

担当者: 浦、岸野

電話: 022-221-4895(直通)